

2006年3月25日

武庫川流域委員会 委員長 松本 誠 様

宝塚市

大日向 美那子

意見書

(1) 新規ダムについて

第37回委員会における河川管理者より提案された新規ダム案について申し上げます。そもそもこの委員会は今までの河川事業の在り方を反省して(つまり環境を破壊し、よく検討がなされぬまま、右かたじがりの経済成長に合わせて行け行けゴーゴーで、箱もの造られてきたことに対する反省)、平成9年に改正河川法が制定された事を受けて、設置されたはずだ。しかし、県の河川課は旧態依然としたダム計画から一步も出る事なく、ほとんど40年前と同じダム計画を発表した。そこには環境という文字は一切なく、完全に無視されている。いったい何のための3年間(準備会議を含めて)だったのか。

新規ダム…辺側の河川課の態度にまず疑問を呈したい。

(2) 新規ダム賛成の委員に対して

委員のなかで新規ダムに賛成された委員が7名おられたが、この方たちの賛成の理由にダムの効率(時間短縮ができる)をあげた委員、また遊水地政策による地権者への影響をあげた委員がおられた。この方たちも旧態依然とした河川事業から一步もでておられないのではないのか。今までの河川事業が効率がよいという名のもとに、大きな自然環境の破壊が起こり、財政面でも巨大な無駄遣いを余儀なくされてきた。また既得権を振りかざし、そのために必要な治水事業もままならぬことも多かった。このようなことへの反省がまったく考えられていないのはまことに残念としか言いようがない。

今後の治水計画はこのような過去の悪弊を取り払う努力をし、市民の環境への関心を喚起させる計画でなければならないはずだ。

(3) 超過洪水への対策を

今までの委員会でも何度か取り上げられているが、河川の中だけでの治水ばかりでなく、超過洪水への対策を、町づくり、農水関係、森林事業、防災関係など幅広い治水対策を考えるべきで、もうこの辺で河川課の代わりに、都市計画課、森林関係、環境課、防災課などの関連行政課の出番があってもいいのではないかと考える。